

安心・安全で日本一おいしい米をつくる
 ～JGAP 維持審査合格&お米甲子園 V2 を目指して～

生物生産科3年 井上勝太郎 他5名

1. はじめに

山形県置賜地方は、県内有数のお米の産地です。つや姫や雪若丸などの山形県のブランド品種の生産が盛んで、米の生産量・品質ともに全国でもトップクラスです。しかし、そんな場所でも新型コロナウイルス感染拡大の影響から、米価の下落や高齢化・担い手不足が深刻化しています。

私たち作物部門ではこれらの課題を解決するため、様々な取り組みを行ってきました。昨年度は、JGAP 認証の初回審査に挑み、県内の高校で初めて米での認証を取得しました。また、全国農業高校お米甲子園で最高金賞を受賞、東北の高校では初めての快挙を達成しました。この成果は、テレビや新聞などのマスコミでも取り上げられ、地域の方々からも励ましの言葉をたくさん頂くことができました。

私たちは改めて置農への期待の大きさを実感し、これらの取り組みが一過性のものとならないよう、継続した取り組みを行いながら、新たなプロジェクトへも挑戦していくことを決意しました。

2. 到達目標

私たちは今年度

ア. JGAP の維持審査に合格すること

イ. お米甲子園で最高金賞を獲得し二連覇を達成することを目標に活動をしました。



3. 実施計画

- ① JGAP を維持するため、県農業技術普及課からご指導いただきながら、自己点検や、書類の作成に取り組みます。
- ② 昨年度最高金賞をいただいたお米の品種はコシヒカリでしたので、今年度は山形県の代表品種である「つや姫」での受賞を目指しました。
- ③ 合鴨農法コシヒカリとつや姫を栽培しながら、6月から8月まで生育調査を行い、収穫期には分解調査・収量調査と食味スコアを計測し調査を行いました。

4. 実施内容および結果

ア. JGAP の維持審査に合格すること

JGAP 維持のため、6月に山形県農業技術普及課の小形恵美さんと一緒に作物班全員で自己点検を行いました。自己点検の結果、自分たちがルールを守れていないことがわかりまし



た。そのため全員でルールを確認したり、注意表記を行ったり、ライスセンター内の片付けなどを行いました。

JGAPの維持審査では、午前中記録簿の確認を行い、農作業時のリスク評価と安全対策に関する事項を中心に話し合いました。午後は、ライスセンターと各圃場においてそれぞれの場所におけるリスク評価と対策を話し合いました。維持審査の結果、必須項目 82.61%、重要項目 89.47%と、ほとんどの項目で基準をクリアすることができました。



イ. お米甲子園で最高金賞を獲得し二連覇を達成すること

今年度、山形県のブランド品種つや姫での最高金賞受賞を目指し、本校では数年ぶりにつや姫の作付けを行いました。基肥は合鴨農法の水田と同様のものを使用し、そのほかの管理や農薬散布については山形県で定める栽培ごよみを参考にを行いました。収穫はバインダーで行い、杭掛けによる天日乾燥を行いました。

同時に、合鴨農法によるコシヒカリ生産も行い、つや姫との生育・収量・食味スコアの比較調査を実施、調整したお米は10月中旬に全国お米甲子園事務局へ出品しました。

生育調査の結果からは、つや姫とアイガモ農法コシヒカリともに、草丈が若干徒長気味でしたが、茎数、葉齢、葉色については、栽培ごよみと同水準で推移し、順調に生育することができました。収量調査では、登熟歩合が両品種とも低い結果となりました。この原因として、登熟期である8月12日から17日にかけての降水による、「低温障害」の影響であると考えられます。それでも食味スコアの結果では、合鴨農法コシヒカリ87点、つや姫84点と、どちらも高い食味スコアを記録しました。また、どちらもタンパク質含量が7%を切っており、食味が良好であることが分かります。

お米甲子園の結果は、慣行栽培コシヒカリが最終審査へ進出、「特別優秀賞」を受賞しました。

5 実施結果 II お米甲子園V2を目指して
収量調査の結果

1㎡穂数 (本)	平均1穂 穂数(粒)	登熟歩合	玄米千粒 重(g)	10a玄 米収量 (kg)
667.5	56.8	42%	20.7	277.3
445.0	96.5	51%	21.0	389.7

低温障害の影響

5 考察・まとめ・反省・感想

今年度、JGAPの取り組みを継続して気づいたことは、「自己点検」の重要性です。自らの活動を振り返り、改善点を発見し、その解決に向けて仲間と話し合い、実践していくこと。これにより、よりよい農業実習ができることが分かりました。今後は、後輩への引継ぎを進めていきたいと考えています。

また、つや姫生産においては、食味スコアが上々の結果がでたので、最終審査への進出と最高金賞V2の獲得を大いに期待しています。地域の農業者を含めたすべての人々が、素晴らしい未来へ向かえるよう、俺たちのこめづくりは続きます。

〈感想〉

井上勝太郎

今年はお米甲子園、JGAP の維持審査など様々なイベントがありました。小松小学校の出前授業では小学生と田植えや稲刈りをし、さらに自分たちがどのように管理してきたかを小学生に説明してきました。質問に対して答えを考えている時間が長かったり、想定外の質問が来たりして大変でしたが、いい経験になりました。

お米甲子園では去年先輩方が合鴨コシヒカリで最高金賞を受賞しプレッシャーを感じましたが、食味値は去年よりも高くいい出来栄えだったと思います。しかし、最高金賞は受賞できず、特別優秀賞という結果になってしまいました。ですが最終審査まで残れたのでよかったです。

JGAP の維持審査では、審査前にトラブルがあり説明する量が増えましたが、落ち着いて対処することができました。去年と同じでライスセンターや、圃場のリスク評価をしっかりし、ファイルにまとめることができました。不適合項目も多少はありましたが、是正報告をしっかりし、維持することができました。

全体を通して準備不足が目立つ年でした。今後何かイベントがある場合は準備からしっかりし、成功につなげていければと思います。

井上拓海

今年はお米甲子園、JGAP の維持審査を行ってみて、受け答えに迷ったところもありましたが、何とか維持審査を通すことができました。審査員の先生から「書類は管理点ごとにまとめられ、ご提示がスムーズでした。質問事項が管理点と適合基準のどこに関するものか理解されていることを拝察しました。」と言われたときはとてもうれしかったです。

農作業の実習では、おいしいお米を作るために草刈りを行ったりすることは大変でしたがよいお米を作れたと思っています。今年はお米甲子園で金賞をとれなかったのが残念です。

瀧湊竣

今年はお米甲子園、JGAP の維持審査を行ってみて、受け答えに迷ったところもありましたが、何とか維持審査を通すことができました。審査員の先生から「書類は管理点ごとにまとめられ、ご提示がスムーズでした。質問事項が管理点と適合基準のどこに関するものか理解されていることを拝察しました。」と言われたときはとてもうれしかったです。

今年はお米甲子園、JGAP の維持審査を行ってみて、受け答えに迷ったところもありましたが、何とか維持審査を通すことができました。審査員の先生から「書類は管理点ごとにまとめられ、ご提示がスムーズでした。質問事項が管理点と適合基準のどこに関するものか理解されていることを拝察しました。」と言われたときはとてもうれしかったです。

今年はお米甲子園、JGAP の維持審査を行ってみて、受け答えに迷ったところもありましたが、何とか維持審査を通すことができました。審査員の先生から「書類は管理点ごとにまとめられ、ご提示がスムーズでした。質問事項が管理点と適合基準のどこに関するものか理解されていることを拝察しました。」と言われたときはとてもうれしかったです。

今年はお米甲子園、JGAP の維持審査を行ってみて、受け答えに迷ったところもありましたが、何とか維持審査を通すことができました。審査員の先生から「書類は管理点ごとにまとめられ、ご提示がスムーズでした。質問事項が管理点と適合基準のどこに関するものか理解されていることを拝察しました。」と言われたときはとてもうれしかったです。

島貫裕基

この1年は、多くの取り組みがありました。中でも特に印象に残った取り組みが3つあり、1つ目はJGAPに向けたライスセンターの掃除です。たくさん荷物があり、1か所を掃除するだけでも一苦勞でした。

2つ目はJGAP関係のことです。自分たちで認証をとるのが初めてでなかなかうまくいかなかったところもありましたが、結果的に認証をとれたのでよかったです。

3つ目は、小松小学校に出前授業に行ったことです。ここでは小学5年生に置農の良いところや、置農で実施している内容をわかりやすく教える取り組みを行いました。

ほかにも様々なことを実施した1年でした。初めてのことが多くあり、大変なこともたくさんありましたが、仲間と協力して実習に取り組むことができたので最後まで集中してできました。

西村拓哉

私は、この最後の一年間で様々なことを学びました。思い起こせば三年目はこれまでの復習のような一年でした。これまで育ててきたアイガモを捕まえてゲージに入れるために首を掴むとき育ててきた命を実感しました。ギャップ検定でライスセンターを見直した結果効率化に成功し、マニュアルの大切さがわかりました。その他の作業の中でも草刈りを再開できたのは個人的に嬉しかったです。

皆川太平

今年は、昨年度に引き続きJGAPの維持審査があり、無事に取得することができてよかったです。また、今年度は密苗にも取り組みそのことについての課題などを見つけることができました。更に、お米甲子園では今年度は最高金賞を取ることが出来なかったですが、自分的にはみんなが草刈りなどを頑張ってくれたおかげでいい米が出来上がったと思いました。

自分は、今年最後の農繁期の実習であったが竹田先生指導の元、様々な機械をいじらせてくれたので楽しかったです。特に二年連続で行ったコンバインのオイル交換やグリスアップなど自分にとってはいい思い出になりました。

来年度も、このようなことを後輩たちが継続していったらいいなと感じました。

